



全労連青年部ニュース

YOUTH TOPIC



つながる・たたかう・支えあう青年部を

ホームページ<http://www.zenroren.gr.jp/jp/seinen/>ブログ<http://blogs.yahoo.co.jp/zenrourenpower>

全労連青年部とは??? 9単産19地方組織の青年部が集まって、青年労働者の声を集め、学習や最低賃金引き上げ、他の青年団体と一緒に雇用、核兵器廃絶・平和などの問題に取り組んでいる労働組合のナショナルセンターです。

広島へ鶴を届けよう大作戦 ～折り鶴PT～

8月4日国民平和進行終結集会后原水爆世界大会に向けて全国に呼び掛けた折鶴を持って「平和の子の像」へ奉納してきました。全国で1万5千羽の鶴が集まりました。折鶴プロジェクトは単産・地方等の協力により沢山の鶴を建交労の「トラックキャラバン」で広島へ届けていただきました。全国各地の取り組みのおかげです。ご協力いただいた皆様ありがとうございました。



奉納前の記念撮影 (提供:建交労)

NPT再検討会議に向けて～被ばくの悲劇を繰り返さないために～



8月4日夜、「Ring! Link! Zero2014 青年の集いと文化の夕べ ～Cultural fusion, Road to NPT (文化との融合。NPT再検討会議に向けて)～」を開催、全国から760名の青年が参加し、大いに盛り上がりました。「なぜ核兵器をなくすべきなのか・どうしたらなくせるのか」というテーマについて、文化のエッセンスも取り入れて被爆者のお話、平和の願いを訴える歌などを

おりませ集会を開きました。全労連青年部は、事務局・実行委員会に参加し、様々な表現方法を体験・交流することで思いを深め、被爆70年・NPT再検討会議に向け確信を持ち帰れる集いをめざしました。

被団協の岩佐幹三さん(85)(左上写真)は「原爆が投下された日の夜は人が燃えていて、町中で火が上がっていた。まるで地獄のようだった」と被ばく体験を証言しました。母親を助けられなかったことや、青春の悩みも喜びも感じずに死んでしまった妹の無念さを語り、「想像力を働かせて、こんな被害があっているのか、再び繰り返さないということを考えてほしい」と訴えました。参加者はその思いを受け止め、受け継ぐ、という決意をこめて岩佐さんとともに全員で「折り鶴」を合唱、手話を交えたことが好評でした。



サクソ奏者の加藤和也さんは人間の誕生から死までを描いた大作を演奏し、演歌師の岡大介さんは、安倍政権を強烈に風刺する「演説歌」で会場を沸かせました。NO NUKES ファッションショーでは、各地の青年が核兵器廃絶への思いを語りました。(左写真)会場の一角につくられた屋台村では各地の青年たちが缶バッジや絵本などのピースグッズを販売し、参加者に活動や商品を紹介、フィナーレは参加者全員で、「戦争はもういやだ」を歌い交わしました(写真右下側)。

参加者からは、「被爆の悲劇を繰り返さないためにできる事は、体験を知り次代へ伝えていく事だと感じた」「署名活動や演説だけでなく、歌や楽器、ファッションでも核廃絶・平和を表現できることを知りました」と感想が寄せられました。



被爆者の“心”や願いを受け継ぐ青年分科会

「青年のひろば～学習・交流と被爆者訪問」は、参加者は約500名が48グループに分かれ、各会場に移動して被爆者の方の証言を聞きました。被爆者の一人の方は、「皆さんがこうやって来てくれたことがうれしいです」と語り始めました。続けて「原爆が落とされたあとはまるで“地獄”だった」、必死に逃げながらあちこちから「助けてください」という声が聞こえ、まるで夕立のように不気味に黒い雨が降り、川には亡くなった人がたくさん流れてきていたと証言し、最後に「その日のことを思い出さない日はない、あんなこと二度と起こしてはダメ。どんどん語り継いでいきたい」と語りました。参加者は被爆者の証言に「想像以上だった」「言葉が出ない」と戸惑い、「核兵器を絶対に無くさないといけない」と真剣に考える一時となりました。



エンディングの1分間スピーチでは、フランスの海外代表が口火を切り「平和の種をまこう、お互いの違いを認め合うことを大事にしよう」と訴え、参加者は「今日の聞き手は明日の語り部、子どもたちに今日の経験を伝えたい」「70年前の話をしているわけではない、未来に起こるかもしれない話だ、自分のこととして考えたい」と来年のNPT再検討会議、被爆70周年に向け決意を新たにしました。

276名から寄せられた感想には、初めて被爆者の話を聞く12歳の中学1年生が「『地獄』と言われる景色を私は見ることはできないけど、…この出来事は忘れないで伝えていくべき」と感想を寄せ、同じく初めて証言を聞く19歳の参加者は初めて証言をするという方から、「原爆で人生が狂った」という話を聞き「そんなことは繰り返してはならない」と決意しました。被爆者の方の「伝えよう」という思いと責任感を感じたという30代の参加者は「この運動が伝えられるかどうかは私たちの責任」と感想を寄せました。ほとんどの感想は、証言をしていただいた方への感謝の気持ちと、この経験を伝えていくという決意のあふれるものばかりでした。感想は、10代23名、20代165名、30代54名から寄せられています。



みなさん、世界大会を通じて私たちは、8カ月後に迫った次回核不拡散条約(NPT)再検討会議を、「核兵器のない世界」を実現する決定的な転機とするために、核兵器全面禁止の圧倒的な世論と行動を作り出す決意を固めました。大会に参加した代表の一人は、「世界が動いている。平和への願いを込めた時をきざみ歯車が動いている。心が動かされる。来てよかった。さびついた歯車に油がそそがれた。やることが決まった。署名を1筆でも多く集める」と決意を寄せています。

私たちが前進を勝ち取るカギは、「核抑止力」論を打ち破る圧倒的な世論と運動を築くことです。ただちに行動に踏み出しましょう。

大会参加者を先頭に、報告会を無数に開き、国際会議宣言と諸決議を学び、2015年のニューヨーク行動に向けた地域ぐるみ、自治体ぐるみのダイナミックな「核兵器全面禁止のアピール」署名行動をひろげましょう。

9月26日の「核兵器廃絶デー」国際共同行動を、全国すべての市区町村、すべての地域、職場、学園で、広範な人々の共同のとりくみとして成功させましょう。

原爆写真展、被爆者の証言、被爆組写真を海外に贈る運動、「はだしのゲン」上映会などをひろげながら、署名の大きな前進を作り出しましょう。

署名プレゼンテーションで掲げたボードに一筆一筆の署名の数をきざみ続け、2015年春のニューヨーク行動に総結集しましょう。皆さん、立ち上がって私と一緒にコールしましょう。

NO NUKES! NO NUKES! TAKE ACTION!

【原水爆禁止2014年世界大会-広島閉会総会(8/6)行動提起 より一部抜粋】